山のおばけ

あの山には怖いおばけが住んでいるんですって。

怖いおばけといっても、見た目が怖いわけではないそうです。このおばけ、山で遭難した人に食べものを与えて救ってくれるおばけなんですって。だからこの山はとても安全、遭難して亡くなる人は誰もいないとのこと。

これだけ聞くと、なんて親切なおばけなんだろうと思うでしょう。おばけが怖いのはここからで、おばけは毎年、食べものを受け取った人の家をその人が遭難した頃になると訪問して、食べものをねだるんだそうです。食べものを渡すまでしつこくしつこく通い続けて、ついには家にあがり込んで、受け取るまでは絶対に帰らないそうです。

食べものは何でもよくて、おせんべい一枚、飴玉一つ、ピザ一枚、牛丼、とんかつ、とにかく渡せばいいそうです。食べものを渡しさえ

すればいいけれど、そこいらに置いておくのはだめで、家を訪問してきたおばけをきちんと迎え入れて、助けてくれた感謝を述べて、直接渡さなければならないんだそうです。

助けてもらったのだから、おばけの恩義に報いなければなりません。おばけからしたら、この食べものはおばけ自身のためのものではなく、他の遭難者を助けるのに必要な食べものです。だから受け取るのは当然です。

おばけはとても責任感が強く、山で人が亡くなるのを絶対に許しません。遭難者が食べものを受け取るまで、どこまでも追いかけて、必ず食べさせてやるんだそうです。そうやって生き延びた人は、生きる権利を得たのだから、人を生かす義務がある。これがおばけの考えです。責任感が強いおばけですから、必ずこれを実行しているというわ

けです。

そういう、ある意味でとても安全な山なので、登山者に大変人気があります。おばけと関わり合いになるのはごめんだ、という人は、遭難しなければいいのです。おばけの世話にならずに山を下りた人には、それなりに箔がつくというものです。

この山の麓には、賑やかな村があります。山登りの季節になると全国からたくさんの人が集まるこの村は、登山者をもてなすのに大忙し。村の人たちは、やってきた人たちに怖いおばけの話を何度でもして聞かせます。この怖いおばけ、実はとても人気があるんです。それで彼らを気持ちよく山へ送り出すのが、村人たちの役目です。

でもこの村の人は、決して自分たちで山に入ることはないんですって。山の実りは口にせず、登山者から受け取ったお金で、遠くの村か

ら食べものを買って生活しているんだそうです。なんでもそれが山のおばけと、村人たちとの取り決めなのだということです。